

令和6年度 墨田区立吾嬬第二中学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 駒田 るみ子

学校教育目標	○自ら学び、正しい判断のできる生徒 (自ら進んで学習に取り組み、よく考え、判断して行動することができる生徒を育てる) ○思いやりのある生徒 (人と協力し、何事にも一生懸命になり、人間関係が上手に築ける生徒を育てる) ○心身ともに健康な生徒 (自らの健康管理ができ、自分自身を大切にしながら、体力向上に取り組む生徒を育てる)
目指す学校像	「楽しく主体的に学び、学校全体に『学ぶ意志』がみなぎる学校」及び「保護者・地域から信頼される学校」 ○「学力向上」確かな学力の定着と向上を目指す学校 (読み解く力と発信する力の育成、及び深い学びの実践) ○「気力向上」・「体力向上」豊かな心と健康な身体を育む学校(心の教育・体力向上及び健康教育の充実) ○「家庭・地域連携」保護者や地域の信頼に応える学校 (学校マネジメントを生かし開かれた学校づくりの推進)
目指す生徒像	○学ぶ意志をもち、「読み解く力」「発信する力」を大切に主体的に学ぶ生徒(知) ○規範意識を身に付け、人権を尊重し、交流活動をとおして伝え合い高め合う心豊かな生徒(徳) ○心身ともに健康で体力向上に努め、困難なことにも粘り強く最後までやりぬく生徒(体)
目指す教師像	○子供が好きで教えることを誇りとし、一人一人の生徒に目を向けて慈しみ育てる教師(慈愛) ○日々学び続け高い見識と豊富な知識を有し、自らの指導力を高めようと努力する教師(研鑽) ○教育公務員としての自覚と責任の上に、教育DXに対応し、令和の日本型教育を推進することができ、自己の資質向上のための研修に励む教師(授業力)

○令和6年度 学校経営計画における重点内容（特に重点とするもの）

(1) 確かな学力の定着と向上を目指す学校（学力向上マネジメント推進校（未定）としての取組）
○「令和の日本型教育」の推進による、「協働的な学び」「指導の個別化」「学習の個性化」を軸とした授業改善
○吾嬬二中プロシージャの確実な実施（Leave No One Behind.の精神）
○朝読書の充実や学校図書館の活用、生徒の交流時間を設定した指導等言語活動の充実

(2) 豊かな心を育み体力の向上を目指す学校
○あらゆる偏見や差別をなくすための人権教育の徹底と全教育活動での人権尊重教育の推進
○「挨拶・返事・靴をそろえる・時間を守る」の徹底（家庭と協力）と毎朝の挨拶活動の活性化
○いじめや不登校などの問題行動の未然防止及び早期発見・早期解決のための情報の収集及び共有と迅速な対応（連続3日欠席者への対応と7日以上欠席した生徒の家庭訪問）

(3) 保護者・地域住民の信頼と期待に応える学校
○学年通信や学校だより、ホームページによる保護者が理解しやすい教育活動の周知の工夫

(4) 生徒のよりよい成長を願い、高い志と向上心をもって教育活動にあたる
○校務部業務内容の改編と、働き方改革を意識した校務運営の実現
○教育公務員として使命感と倫理観に基づくサービスの厳正の徹底と、計画的な服務事故防止研修

* 全ての教育活動において「組織目標と個々の教職員の職務目標との一致」による教育効果の最大化を図る。

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価			
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等	
各教科指導等	確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施し、生徒の授業評価で「分かりやすい」の回答を85%以上にする。	ICTの活用。 効果的なタブレット活用を実践し授業の変革を行うと同時に、紙のワークシートの多用により、しっかりと書かせ定着を図る。	4	タブレット活用授業を週15回以上、取り組めた	4	4	授業評価の分かりやすいの回答を90%以上	2	80% 教師も生徒もそれぞれにおいてスキルの差が大きい。ICT担当を中心に新しい情報の共有ができています。一方で、依然として苦手意識を持っている教員、及び生徒がいる。	A	A	学校の評価は妥当である。ICT機器の活用については、苦手とする生徒のケアも適切に行ってほしい。
			3	週10回以上、取り組めた		3	85%以上					
			2	週6回以上、取り組めた		2	75%以上					
			1	週3回程度、取り組めた		1	75%未満					
		アウトプットの徹底。 80%（小テスト・演習・定期考査以外）の授業で実践する。	4	授業内のアウトプットをほぼ毎時間、取り組めた	3	4	11月の学力テスト結果が全国平均を5ポイント以上	2	アウトプットの時間が確保できず、時間が足りない状態で終わる授業が散見される。アウトプットの仕方もまちまちであった。因果関係はそれだけではないが、目標の結果に届かなかった。	A	A	学校の評価は妥当である。引き続き学力向上を目指して頑張ってほしい。
			3	2回に1回以上、取り組めた		3	1ポイント以上					
			2	4回に1回以上、取り組めた		2	マイナス5ポイント以内					
			1	週に1回程度、取り組めた		1	マイナス5ポイント未満					
	教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。	OJTによる授業研究を、年間4回実施し、ICT公開授業を実施する。教師全員の本校プロシージャを徹底する。	4	OJTによる授業研究に年間4回以上、取り組めた	4	4	教員のプロシージャ実施率が90%以上	3	二中の授業プロシージャ及び墨田区授業の流れを徹底させる。まずは基本を大事にしてやってみる。OJTを意識して、そのうえで授業改善に取り組む。	A	A	学校の評価は妥当である。引き続き学力向上に向けた指導力の向上を目指して取り組んでほしい。
			3	3回、取り組めた		3	85%以上					
			2	2回、取り組めた		2	75%以上					
			1	1回、取り組めた		1	75%未満					
年10回以上の学力向上委員会開催及び指導教諭等の授業参観10名以上とし全員研修を受講する。		4	指導教諭の授業を10名以上、参観した	3	4	教員の指導力研修に対する満足度が90%以上	3	学力向上委員会を10回以上行うことができていない。指導教諭の場を見に行ったり、その放火の授業を見た教員は、授業見学をしてよかったですと実感している。	A	A	学校の評価は妥当である。	
		3	8名以上、参観した		3	85%以上						
		2	5名以上、参観した		2	75%以上						
		1	3名以上、参観した		1	75%未満						
家庭学習の確立に向けた取組として学び方を教え、学ぶ意志を持たせるとともに、「読み解く力」「発信する力」を育成する。	家庭学習の平均時間が全学年において調査時160分以上にする。そのために年間4回の家庭学習調査を実施する。	4	家庭学習調査に年4回、取り組み実態把握をした	4	4	調査時の家庭学習の平均時間が160時間以上	2	中間・期末の調査前は140分であった。しかし、調査後（テスト後）は45分となっており、かなり差がある。面鏡の仕方が分からないという生徒の声がある。	A	A	学校の評価は妥当である。家庭学習の充実には家庭との連携が重要である。連携を強化し取り組んでほしい。	
		3	年3回、取り組み実態把握をした		3	120時間以上						
		2	年2回、取り組み実態把握をした		2	90時間以上						
		1	年1回、取り組み実態把握をした		1	90未満						
		4	朝読書を年間150回以上、設定し取り組んだ		4	4						不読ゼロを目指し月1冊以上読む生徒が90%以上
3	年間120回以上、設定し取り組んだ	3	85%以上									
2	年間90回以上、設定し取り組んだ	2	75%以上									
1	年間60回以上、設定し取り組んだ	1	75%未満									

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等		
生活指導等	人権尊重教育の推進・発信を行いレジリエンスを備えた思いやりのある心を育てる。	人権プログラムやESDを活用し生徒による人権啓発実践を年6回以上取り組む。 →(100%達成) 学年だけでなく、各専門委員会がSDGsに取り組むように指導する(発信する力育成)	4	人権啓発実践を年間6回以上、設定し取り組んだ	4	4	人権またはSDGsの生徒自身の取り組み率が90%以上	4	3年生の校長面接からも、本校で人権学習に取り組んでいることを誇りにしている生徒が多いことが分かる。実際に各学年人権学習やSDGsの理解に取り組んだ。	A	A	学校の評価は妥当である。人権学習は引き続き力を入れて取り組んでほしい。新たな人権課題にも目を向けているところは素晴らしい。	
			3	年間4回以上、設定し取り組んだ		3	85%以上						
			2	年間3回以上、設定し取り組んだ		2	75%以上						
			1	年間1回以上、設定し取り組んだ		1	75%未満						
		人権トラブルの未解決をゼロにするために、いじめの早期発見のために、シャボテンログを活用し、学年集団での組織的な取組を行う	4	シャボテンログの活用を毎日、取り組めた	4	4	シャボテンログの内容に対する取り組み率が90%以上	4	よく使われているが、システムのトラブルがしばしばあった。	生徒からの、SOSに今後も敏感に対応していく。また、担任だけでなく、その生徒が話しやすい教師が対応できるようにしておく。	A	A	学校の評価は妥当である。
			3	週に4回以上、取り組めた		3	85%以上						
			2	週に3回以上、取り組めた		2	75%以上						
			1	週に2回程度、取り組めた		1	75%未満						
	誰一人取り残さない教育の実現のため、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行う。不登校出現率を7%未満にする。→(8%)であった。	明るく過ごしやすい学級環境を作るために、いじめの早期発見の意義を知らせる。	4	学級での声掛けを毎日、取り組めた	4	4	不登校生徒の学校での活動時間の割合を50%以上	3	校内適応教室である、ASルームにおいて過ごす生徒が増えた。学校で過ごせる時間が増えた生徒もいる。	A	A	学校の評価は妥当である。支援体制が充実していることが伝わってくる。	
			3	週に4回以上、取り組めた		3	40%以上						
			2	週に3回以上、取り組めた		2	30%以上						
			1	週に2回程度、取り組めた		1	30%未満						
		不登校を減らすための工夫(支援員との連携)、ASルームの活用、外部機関の活用などを具体的に盛り込む。	4	ASルームでの生徒への声掛けを毎日、取り組めた	3	4	不登校率7%以下を目指し他機関に95%以上つないだ	3	登校できない理由はさまざまであるが、担任や支援員が家庭と連携して成果指標3まで達成することができた。	A	A	学校の評価は妥当である。	
			3	週に4回以上、取り組めた		3	85%以上						
			2	週に3回以上、取り組めた		2	75%以上						
			1	週に2回程度、取り組めた		1	75%未満						
集団の規律を守る態度を養い、危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組を徹底する		避難訓練・安全指導は毎月必ず実施し、保健指導を充実させる。	4	避難訓練・安全指導を毎月、取り組めた	4	4	避難訓練・安全指導に対する生徒満足度を95%以上	3	生徒アンケートの結果は87%であった。目標の95%には届かなかったが、避難訓練に関しては毎回真面目に取り組んでいる様子が見られた。	A	A	学校の評価は妥当である。今後も時代やニーズに合わせた活動を積極的に取り入れてほしい。	
			3	年に15回以上、取り組めた		3	85%以上						
			2	年に12回以上、取り組めた		2	75%以上						
			1	年に9回程度、取り組めた		1	75%未満						
	毎月の安全指導日以外で、安全に関する指導を年間3回以上実施し、帰りの学活での一声の実践を週1回以上、また、必要な時に行う。	4	帰り学活での一声実践を毎日、取り組めた	4	4	危機回避能力を身に付けたという生徒割合が80%以上	4	避難訓練・安全指導への生徒満足度の設定が95%以上であったのに対し、この項目は80%以上を4と設定したため評価に差が生じた。実質は上記と同様である。	A	A	学校の評価は妥当である。		
		3	週に4回以上、取り組めた		3	70%以上							
		2	週に3回以上、取り組めた		2	60%以上							
		1	週に2回程度、取り組めた		1	60%未満							

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等		
学校の管理運営	学校は、経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行う。学校関係者評価でA。	教育課程の届出以上の授業時数を確保し、100%以上の完全実施とする。→ (100%)	4	組織的に時数管理の作業に毎日、取り組めた	4	4	授業時数を確保し、各教科の実施率が100%以上	4	2学年において学級閉鎖を行ったが余剰時間も確保しているため、授業時間は100%の確保が見込まれている。	時間数的には、教務部時間割担当による、計画的な時間割調整を継続する。時間数だけでなく、授業内容の確実な履修を徹底する。時数に余裕がある段階でのチェックを行う。	A	A	学校の評価は妥当である。
			3	週に2回以上、取り組めた		3	95%以上						
			2	週に1回以上、取り組めた		2	90%以上						
			1	月に2回程度、取り組めた		1	90%未満						
	学校は、適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整える。保護者アンケートで施設に関する項目の肯定的評価86%以上。→ (91%)	経営支援部を改編し、教員も入って校内整備にあたらせる。毎日の校内点検を組織的に行う。	4	組織的に校内点検に毎日、取り組めた	3	4	保護者の教育環境への肯定的意見が90%以上	4	保護者の教育環境への肯定的意見は、95.5%であった。校舎は8年目でまだ新しい。それだけでなく、副校長・生活指導主任他、教員らによる校内点検や、主事による整備が行われている。	継続して校務支援部による校内点検・整備を行う。置き傘や教室内のロッカーの整理整頓に努めさせる。	A	A	学校の評価は妥当である。引き続き安心・安全な学校づくりに取り組んでほしい。
			3	週に2回以上、取り組めた		3	85%以上						
			2	週に1回以上、取り組めた		2	75%以上						
			1	月に2回程度、取り組めた		1	75%未満						
	子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行う。	調査結果を反映させた授業改善作成し、評価のために、保護者アンケートの回収率を85%以上にする。(昨年度55%)	4	学校だよりや学年だよりの発行に毎月、取り組めた	4	4	保護者アンケートの回収率を90%以上	3	保護者アンケートの回収率は昨年度の55%から89%に好転した。昨年度はFOMSによるものであったが、今年度はCOCOOで配信したうえでFORMSを活用した。そのため回収率が上がった。	保護者に声掛けがしやすい形での方法を今後も継続する。また、それによってより精度の高い学校評価及び授業改善を行う。	A	A	学校の評価は妥当である。前年度からの大きな改善が見られたことは素晴らしい。
			3	2ヶ月に1回以上、取り組めた		3	85%以上						
			2	3ヶ月に1回以上、取り組めた		2	75%以上						
			1	3ヶ月に1回未満、取り組めた		1	75%未満						
教職員の働き方改革を推進する。週あたりの在校時間は60時間以内にし、週あたりの在校時間が50時間を超える週が2週以上続かないようにする。月あたりの時間外勤務45時間以内にする。	残業時間を月平均45時間以内とする。→ (70%の教員が達成するようにする)	4	個々の残業時間の声掛けを月4回、取り組めた	3	4	残業時間月平均45時間以内の教員が100%	1	残業時間月平均45時間以内の教職員は50%であった。教員22名中達成できたのは7名で32%であった。目標に程遠い状態である。残業時間が過労死ラインに近い教員もいる。夏休みは含めず。	部活動地域移行を進める。仕事の仕方についてアドバイスする。よりよいものと思うことは素晴らしいが時間を考慮して授業準備や行事の計画を取り組ませる。	A	A	学校の評価は若干厳しいような気もするが、実態を考慮して妥当であると判断する。働き方改革に向けた取組の充実を期待する。	
		3	月3回、取り組めた		3	95%以上							
		2	月2回、取り組めた		2	90%以上							
		1	月1回、取り組めた		1	90%未満							
家庭・地域連携	教育方針や日常の教育活動の様子などを家庭や地域に対して、工夫して分かりやすく伝える取組を行う。	ホームページの更新を週2回以上に増やし、学校連絡の徹底を図る。「吾二の日常」「保護者専用ページ」を積極的に活用する。	4	吾二の日常の更新を週2回、取り組めた	4	4	広報活動により学校生活が分かるという回答が90%以上	4	今年度はホームページの更新回数を増やした結果、1・3学年において保護者アンケートで90%であった。「吾二の日常」が好評である。学年通信学校だよりも計画的に発行した。	現在の方法は、昨年度から飛躍的に分かりやすくなったため、来年度も継続する。記録係が多くなり過ぎないように役割分担をしっかりと行う。	A	A	学校の評価は妥当である。引き続き取り組んでほしい。
			3	週に1回、取り組めた		3	85%以上						
			2	2週に1回以上、取り組めた		2	75%以上						
			1	3週に1回程度、取り組めた		1	75%未満						
	保護者アンケートで「たより、文書が分かりやすい」の肯定的評価85%以上。→ (82%) 「安心して通わせられる学校」の項目で肯定評価93%以上。→ (83%) であった。	学年だよりなどの管理職確認を毎号、取り組めた	4	学年だよりなどの管理職確認を毎号、取り組めた	4	4	たよりが分かりやすいという肯定的意見が85%以上	4	3学年においては保護者アンケートで91%であった。	ホームページのよさと、非公開で学年保護者だけに配布される学年通信との役割を踏まえつつ、継続して分かりやすく様子を伝える。	A	A	学校の評価は妥当である。
			3	週1回、取り組めた		3	80%以上						
			2	2週に1回、取り組めた		2	75%以上						
			1	3週に1回、取り組めた		1	75%未満						
	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行う。	各学年で最低1回は外部人材を活用。PTA活動や地域の活動に教員が最低2回は参加し情報交換を行う。→年1回	4	地域行事に教員が平均で年間2回以上、参加した	3	4	教員の地域行事参加に対する肯定的意見が85%以上	3	教員の意識として「行うこと」「参加すること」に対しては肯定的だが、「勤務すること」となると一意見が出る。	地域を知ることや地域での生徒の様子を知ることは意義のあることであるため、回数を決めて参加する。	A	A	学校の評価は妥当である。働き方改革と相反する部分でもあるが、今後も地域とのつながりを大切にほしい。
			3	年1回、参加した		3	80%以上						
			2	年0.7回、参加した		2	75%以上						
			1	年0.5回、参加した		1	75%未満						
地域力の活用として、地域と連携した防災教育を推進する。	東京防災の活用と地域連携の防災教育の計画的実施を徹底する。年3回以上実施する。→ (100%)	4	地域連携の防災教育に年間4回以上、取り組めた	4	4	地域連携の防災教育に対する肯定的意見を85%以上	4	東京防災の活用と地域連携の防災教育の計画的実施を徹底する。年3回以上実施した結果、肯定的意見の目標を達成した。	継続して、座学での防災教育だけでなく、地域と連携した体験型の学習を行う。	A	A	学校の評価は妥当である。今後も、地域と連携した防災教育に取り組んでもらいたい。	
		3	年3回、取り組めた		3	80%以上							
		2	年2回、取り組めた		2	75%以上							
		1	年1回、取り組めた		1	75%未満							
部活動地域移行に向けて、二つの部活動において、部分的な移行を進める。これによって教育の働き方改革を同時に行い残業時間の減少につなげる。	地域人材の活用や、地域スポーツ団体との連携によって、部活動の地域移行を推進する。二つの部活動で実施する。	4	地域移行による部活動を月に4回以上、取り組めた	4	4	地域移行による教員の負担感軽減の実感が85%以上	4	地域移行は現在、二つの部活動でしか実施していない。その部活では明らかに負担が軽減している。	来年度、予算が付けば、バスケットボール部などでの地域移行が期待できる。また、その他総合的な時間の学習においても、地域人材の活用を継続する。	A	A	学校の評価は妥当である。働き方改革も含め、地域意図をうまく進められればよいと思う。	
		3	月に3回、取り組めた		3	80%以上							
		2	月に2回、取り組めた		2	75%以上							
		1	月に1回、取り組めた		1	75%未満							

○今年度課題を残したのは、学力向上の部分である。学習時間やICTの活用、家庭学習課題において改善すべき点がある。逆に大きな成果が上がったのは、不登校対策と広報活動である。不登校対策では、どこにもつながらない生徒がなく不登校率にも改善が見られた。"Leave No One Behind."の実現に近づいたと言える。また人権学習は53年目を迎えますますます充実している。初年度の学力水準向上事業の精神を忘れずに引き続き「学力向上、体力向上、気力向上」に取り組んでいく。そして「人権学習」を通して、他と協働的に取り組みつつ、広く世界への発信する力を身に付けさせたい。今年度取り組んだレジリエンスについても継続する。そして、地域防災教育を中心に地域との連携をさらに深め貢献できる中学生の姿を示したい。1年間御協力ありがとうございました。